

昭和十年十月二日
小畑参謀述

軍司令官初度巡視に際し
承德兵營敷地現地案の説明

獨立混成第1旅團司令部

承徳に於ける兵營敷地の現地業として司令部、歩兵聯隊の大
隊を離宮内廣場に工兵輜重兵隊を離宮對岸山脚にと云ふ
ことに判決致しまして唯今上司に上中中てあります。

斯く判決致しますに就きましては警備を第一として承徳の發
展名蹟の保存鐵道との連絡の四項目を考慮按既慎重
に研究した結果警備を第一とは申しましたか承徳の發
展と名蹟の保存の爲には大に軍の希望を犠牲にして警備上
の不利を忍んで譲り得る最大限度を譲つたてでありますか
今より其経緯を御説明申上げます。

承徳に於きまして兵營敷地問題が論議せらるる様になりま

したのは第八師團が河北作戰から引き上げて承德に落ち付き
 鐵道の承德に伸いることになり停車場位置を確定して實測に
 かゝらねばならぬ様になつた一昨年秋頃からかとなります
 唯今残つて居ります第八師團の計畫圖を見ますと唯今停車
 場が出来てゐる河東の地へ新飛行場のある附近から北へかけ
 て兵營敷地官舎地帯市街と云ふことになつて居り停車場は
 河西に選んで居ります

私が昨年八月第七師團參謀として着任し兵營關係事項
 を管掌することになり申送りを受けました時に前任者の説明
 では「承德が將來發展するには此河東河西の兩地區かない。それ

には地積の廣く河東に鐵道を入れると市街殊に兵營の建設に
 種々不都合が多いので停車場を河西に造ることにした。併地
 積の關係で滿鐵も甚々苦心したかとうしても河西には這入り切ら
 ないので河東に土地を求むる外はなくそうすると兵營敷地の
 選定に非常な困難が起る。それで軍には離宮北部の廣場に
 病院と歩兵營を作る意見を出してゐる。そして特に師團長
 閣下の御意見も名蹟を保存する為には軍隊が居た方がよい殊
 に離宮の中心は池の周囲にあるたから北の廣場に兵營を建て
 るも建築に注意し適當の土壘を作り樹木を植えて目隠をす
 るは決して風致を害するものではないと云ふ所見が加へてある併

此敷地問題には滿洲國が反對た相て實現するか否か尙不明であるが離宮が現在保存されてゐるのは軍隊が住んでゐるからたとの事實を滿洲國側が認識すれば容易に解決することたか尙交渉の経過は不明であるが兎に角離宮を使はぬことにして病院を離宮前の歩兵營附近の空地に建てる計画で土地の買収に迫つたのが急に取り止めになつたところを見ると此問題は或は有利に展開してゐるのではないかとも思ふこととて御座るべきだ。且又當時は尙幾何の兵力を承德に置くかも具體的に示されて居りませんでした。

承德では昨年の七月頃から都市計画を具體的に研究し始めました。

たので私は早速相談相手にされたので河東の地に着目し、ありま
 すかお水を生かす為にかゝりて停車場を河西に持つて来る様に
 出来ぬものと頼まれましたので未だ何等具體的のことは分りませんで
 したか前任者の申送りもありましたので早速満鐵の錦糸建設
 事務所長に話して見ますと「實は満鐵側でも種々苦心をした。
 若し停車場の規模を軍の要求規格より小さくすることが許さ
 れるならば可能である」とのことでありました。それで軍へ参りまし
 た時主任者に承徳の土地の特種事情を述べ、離れたいところに持
 越線や汽関車庫を作つて今少し停車場用地を小さくすること
 が出来ぬかと意見を伺いましたところ大に同情されまして何とか

研究——見塚とのこと——繰の望を続いたのであります。彼は
 参謀本部の要求を動かせたいのみならず、停車場のみを小さくす
 る以外の停車場を大きくしたことの無意味に於いては、仕舞ふから
 目たとの田舎がありしを停車場の位置は河東として動かせぬ
 ことはなつて仕舞ひました。

そうすると吾營を河東に作ることは望ましくないので、外の地域を研
 究せねばならなくあつたのであります。たか、恰も其頃軍から病院の敷
 地が離宮の現在位置に決まり別に廣い敷地が軍用地として滿洲
 國から譲られた旨の通知を得ましたので、現地では吾營敷地問題
 の大きな部分は一先つ解決したものと考へておりました。

尤も河東の地は地域としては廣いのであります。其に兵營敷地として研究して見ますと、現飛行場附近の如く一方は川一方は急な山で平坦な河原に過ぎませぬ。閑寂から道場、演習場を附近に求め難く、鐵道の敷設を別と致し、ましても兵營敷地としては適當にはありません。

當時者公署の立案としてゐました都市計畫には承德の発展策として別に産業の地があるから申緒ある土地極もある。大を建て、學都にして、度々と思ふ。それには離宮對岸の河東の地を充て度々の意見でありました。

之に對しては「誠に尤も著眼してあるが兵營敷地問題として特

科隊の分が残つてゐる其土地を市街に餘り遺憾をかけた
 こ求め様とすれは此地域よりないのであるから軍としては保留
 して置き度い。

大學等出来るのは高旅途遠慮と思ふが其頃には既に荒廢してゐる離
 宮の建物の大部は自然に崩壊するであろう其處に建てればよい
 こはながいと申して此地域を譲りませんでした。

然るに本年の三月末か四月初めと記憶致して居りますか旅團に
 たりましてから陸軍省の建築課長が来られまして兵營敷地を見合
 した結果「河東の特科隊兵營豫定地域は堤防も作らねばなら
 ぬ橋も架けねばならぬ其には莫大の金が入るから河西に土地を求める

1052-2

ことは出来ぬかとの意見がออกมาして「それからは停車場對岸の地域
 一かあり。併し此處は承德の爲の唯一の土地である之を取つては
 承德の街は壊り様かありから駄目だと申しますと其時一部に軍
 あつての街である軍の爲に街の犠牲にあつても致し方かありはあり
 かとの強硬な交渉もありましたか「戲談を云つてはいけぬ満洲國開
 發の爲に駐屯してゐる 皇軍である其 皇軍が満洲國の
 發展を阻害することを敢てして何うするか。而も警備上萬一むを得ず
 此は講ずれば免れ角僅かお金で熱河の主都たる承德を殺すか如きは
 は以ての外であると對手に致しませんとした。又事實特料敷地は
 山寄りに兵舎を建てれば必ずしも堤防は必要となく又橋梁は滿洲

國側で架けることに畧了解か進んで居るので御座ぬ

次に軍からの要求で常駐配置の兵力配備の原案を呈出することになりました。此研究には警備を主とする外は軍隊の教育訓練と營外居住者の生活を考慮に加へねばならぬのでありました。警備上は勿論家族の生活特に子供の学校問題を考へたりすると山砲隊を是非承德に置き度くなりまして兵營敷地を再度検討することにありました。

實測を命ぜられた山砲隊は成る可く承德にのたひ氣持もありました。懸念に承德附近を精査したのであります。結局停車場對岸地域より土地を求め得ないと云ふ判決にありました。

て「其れはは旅團の土地發展と云ふ大方針に及する。従て警備上の異
 から見れば好ましくはあいか鐵道の利用も胸算出来る。且又
 赤峰林西方面に對する腕も利くから將來相當の都市とあるべく豫想
 せらる葉相樹て我慢することに仕様」と云ふことに落ち付きまして
 其意見を軍に呈申したつてありました。そして軍に参りますと主任
 者から「熱河は東遼道方面に次いで治安の悪いところである。特
 に常時北支察哈尔に對する重圧を保持して居らねはあらぬ任務
 もある。其か為には是非承德駐屯の兵力を大きくせねはあらぬ
 のであるか何とか出来ぬかとの相談がありました。其時其れは出来る離
 宮さへ使へば一師團を收容することも不可能でない。併し此由結あり

名蹟を荒廢してゐるとは云へ高建物の形體が存在してゐる今日に於て直に兵營にして仕舞ふことは如何かと思ふ。従て此離宮の利用を其風致を害せざる程度に止め名蹟を名蹟として保存するに當りは旅團の計畫した以上の兵が置けあつてある。強て兵營を他の地域に求めて山砲隊を置くことは出来るかそれでは承徳の街を殺す仕業である。旅團の意見を強く主張し主任者も亦已むを得ざるものと諒解した様でありました。

則ち現地のものは「警備第一主義」を斷じて忽にするものはありませぬか「土地の發展」と「名蹟の保存」には至大の関心を持ち之が爲に譲り得べきは大に譲つて可成りの不便を忍んで居るつてあります

之に關聯して是非申上げ度いのは飛行場の問題であります。旧承
 徳飛行場は現在の停車場のところにありましてありますか工事が
 始まると共に物轉の必要を生じました。

元來承徳飛行場は將來北支察哈爾方西へ進出の基矣となり
 ます要矣と單に民間飛行場としてのみならず軍用の見地からも極
 める重要な任務を持つてゐるものであります。而て現用軍用飛行場
 は承徳から十村も離れた備嶺と申すところにあります。單に軍
 用として使用する際にも離れ過ぎて困つてゐるのであります。然ら
 ば滿鐵では現飛行場の施設には築堤に莫大の費用を要する。何と
 にかして航空会社の飛行場を其備嶺に一度いと希望した

のてありまうたか飛行場が街から軍隊とも程離れてゐるは何等
 の價値を持たない義徳は鐵道と飛行機に依つて飛展し得る街
 とある従て飛行場を最も便利おとろに作つて汽車と飛行
 機の連絡を容易にして置かねば如何に鐵道の閉通しとも北支察哈
 爾を目標とすへき承徳の發展を著しく阻害するものてあるとの
 意見から旅團の種々幹旋奔走致しつゝ兎に角現在の飛行場
 が出来上り来る六日には滿鐵から航空會社に引き渡す迄に運ん
 だてあります。此飛行場は近く大空港とあるへきを豫想すると共に
 軍用に供し得る爲に重爆と避難著陸せしめ得る様に大きく
 出来て居ります。併此飛行場と雖遠き將來に於て承徳の街かはち

切れる様におはは偏嶺に移轉せねはあらぬ旨を今から航空會社に
申含めては居るてあります。

則ち旅團としては承徳の急進ある發展に資する爲に飛行場を至
便のところに設け而も之を遠き將來に於ける承徳大發展の餘地
として保留する策に出たのであります。

斯の如く承徳は土地が狭隘であります為軍の要求と土地の開
發を調和せしむるには現地では一方あらぬ苦心を拂つてゐるのであり
ます。

斯の如く承徳は山向谷間に出来た街でありますので横かつて行く地域
が著しく限定されて居ります。

且此に承徳には現在既に三千に近き日本人が兎に角詰め込んで居
 ります蓋家屋拂衣て満人家屋を借りまゝ一軒に何人も住んでゐる
 有様で家賃等も相當高くなつてゐるのでありますか今日ではいくら
 金を出してても、う家のお返しにありまゝです。

而も現在の日本人は独身で来てゐるのが多いのでありますか之が落
 ち付いて家を持つことになり又今圧縮されて住んでゐる満人の普通
 の廣さを取り殊に官廳其他の新築に依つて立ち退かされる満人
 のことを考へますと新築が初まり出せば忽ちして現在の豫定規模
 地域の一杯におつて仕舞ふのであいかと考へられるのでありま
 ず。

それで軍隊側の官舎敷地に早く土地を保留して置かぬと困ること
 におもて考へ省の方で高工街に豫定して居りよした停車場對
 岸河西區の高いところを氣の毒には思ひよしたか已むを得ず官舎地
 域と豫定させた様お次笑てありよして放圍の所要官舎地積は
 数字的には最小限四万坪と計算されておますか家族を當地に置いて
 餘地に分出する者、為寺を考へ又多少の餘裕を見積り且北海
 道あたりの例を見ますと五、六万坪でも或は不十分でないかと思はれ
 るてあります。それで第七師團當時には離宮の東部で小山
 の蔭になつておるところを候補地と考へたことがありました。
 離宮は我々常住して居りよす者には軍隊が出て仕舞は急に崩

出すのであいかとの感が深くあります。それは今軍隊で使つてるとい
 ると正殿を比較しても分るのであります。實は軍司令官閣下が
 御出にありません。就きまして屋根の草でも抜こうとは思ひかとの意
 見も出さしたか何年か根強く生へてゐるのを下手に抜つては雨が漏
 る様にあつては大変なうぢるに、でも人が乗つた爲に瓦が割れても
 困ると云ふので甚だ不体裁てあります。其儘に、たのであります。
 それに今年には幸に雨が少う御座りましたが、雨期毎に土壁が
 自然に崩壊したり建物の壁が割れたり傾いたりします。絶えず
 注意は致して居りますが、住んでゐるものは恐ろしくなつて居るのあり
 ます。

内地からの旅行者には日本、建築物と同じに考へ一寸平入をすれば永く保存出来る様は思ひのてあります。用材が日本の様に立派なものではなく、西も良く枯らさない材木を縫き合せて厚く包んで朱泥を施してある關係から一皮剝せは著しく腐巧してゐることが多く、西も土を用いて煉瓦を列へてある部分が多いので、外見掛け倒しの觀があります。週日多倫で軍から頂いた金で喇嘛廟を修理してゐるのを見ました。平を入水出すと次ぎ次ぎと思ひかけるところに腐りが廻つてゐるので、ホト／＼平を焼いてゐるのを實見して特に此感か深いのであります。又何より心配だ。は離宮の風致を添えて居ります。斯老松でありますか。とうい

たものが元気が悪くて枯死するのが多いためです。

閣下がお出になれます。餘り見苦しいところは切らせまい。たか
 隘分の数であります。滋養には省費に手入法を研究して世貴
 つて居りますか。未だ名案が少く様で植林の経験ある人の一説には
 蒙古風の葉を汚して木が育たなくなるので深林が年を逐ふて海
 岸線に近く造りやられるのが一般原則だから何とも致し方がないのと
 のこととあります。蒙古風が近年にふって吹き初めたわけでもない
 からうから如何かとも思いますが。田場方面にあったと云ふ大森林も隘
 分の結果ともありませう。ようか現在何等見る影もなく熱河一帯
 の山々が餘りにも禿けておますところから考へると幾分その関係

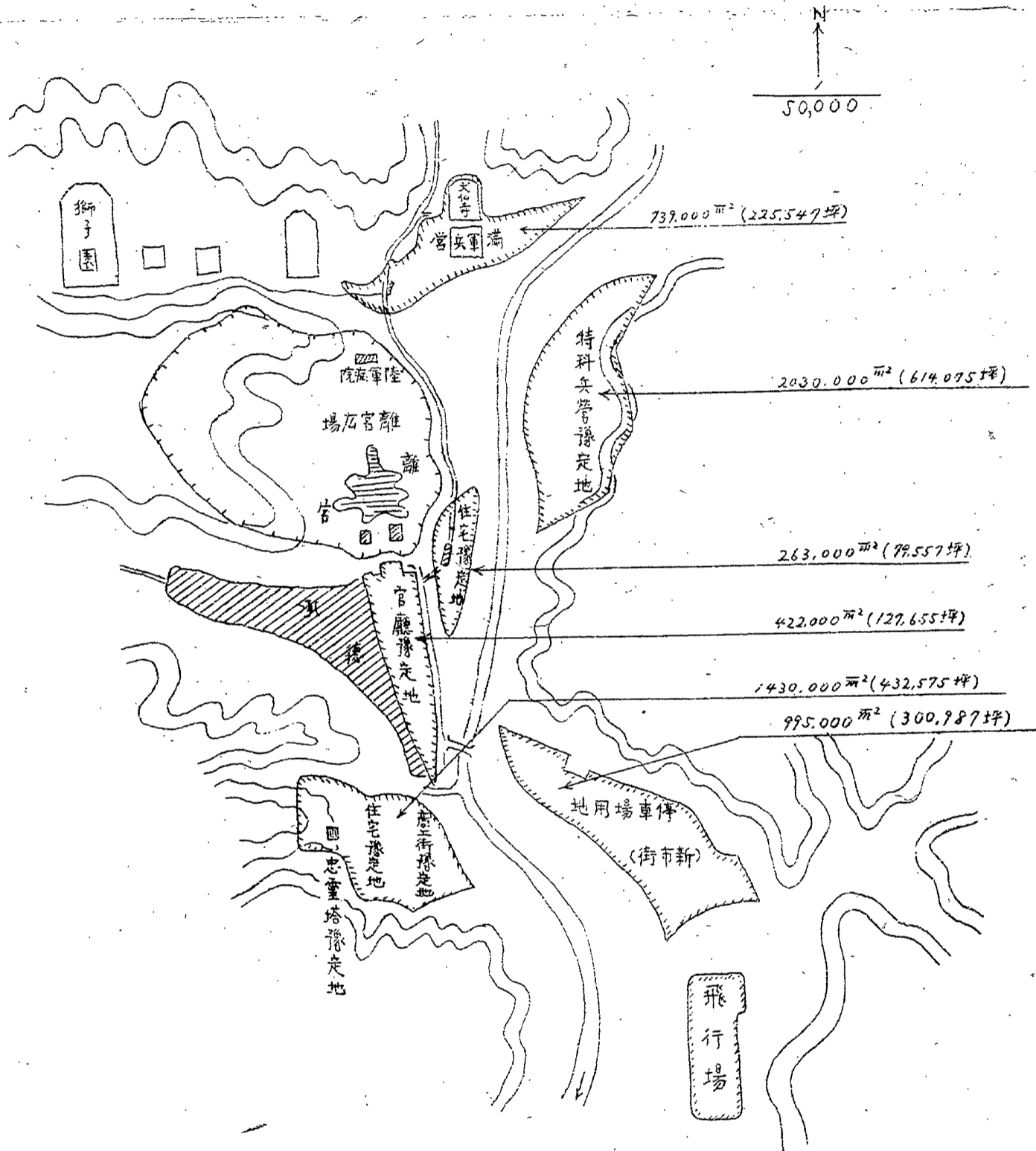
かあつてもないかとも存せられず。

第八師團は紀念の爲何百本とか何千本とかの松苗を離宮に樹へたためてありまゝたか一本も育つて居りません。離宮の風致を保存する爲には建物の崩壊を防ぐ方法を遠に講ずると共に並に植木の平斂を研究することか第一で然らずは離宮は年ならすゝて地と山丈になつて仕舞ふのではないかと心配致してゐる次第でありますか、りとして斯く迄腐巧した建物を補修するには或は新築以上の莫大の金がかかります。よう—植樹と申しても雨量の小さいところと云ふへくして容易の業ではありませんから此名蹟も他の支那の名建築の総てを取つた運命を辿つて近き将来に名のみを遺すことに

なるのではないかと思っています。

餘談に亘りましたか。承德の兵營敷地問題に就きましては前
述の如き経緯を取って今日の判決に及んでゐるのであります
が、閣下も唯今から御覽に於る停車場對岸地区は兵營を建築す
るには勿論必要な地積を持つて居るのであります。兵營敷地と
しては積土の必要があり、而も何んたか狭いところにもあります。感も
よくありません。又之を街から取り上げましたら、緩々申上げた
如く、承德の發展上非常に苦しい立場に於りますので、都市計画の當
事者が青天の霹靂として競々の思へてゐる次第であります。
進今より現地に御案内申上げます。

圖面平近附德承



0516

1067